

第5章 区間別計画

それぞれの区間において、整備テーマに基づいた基本計画図を示します。

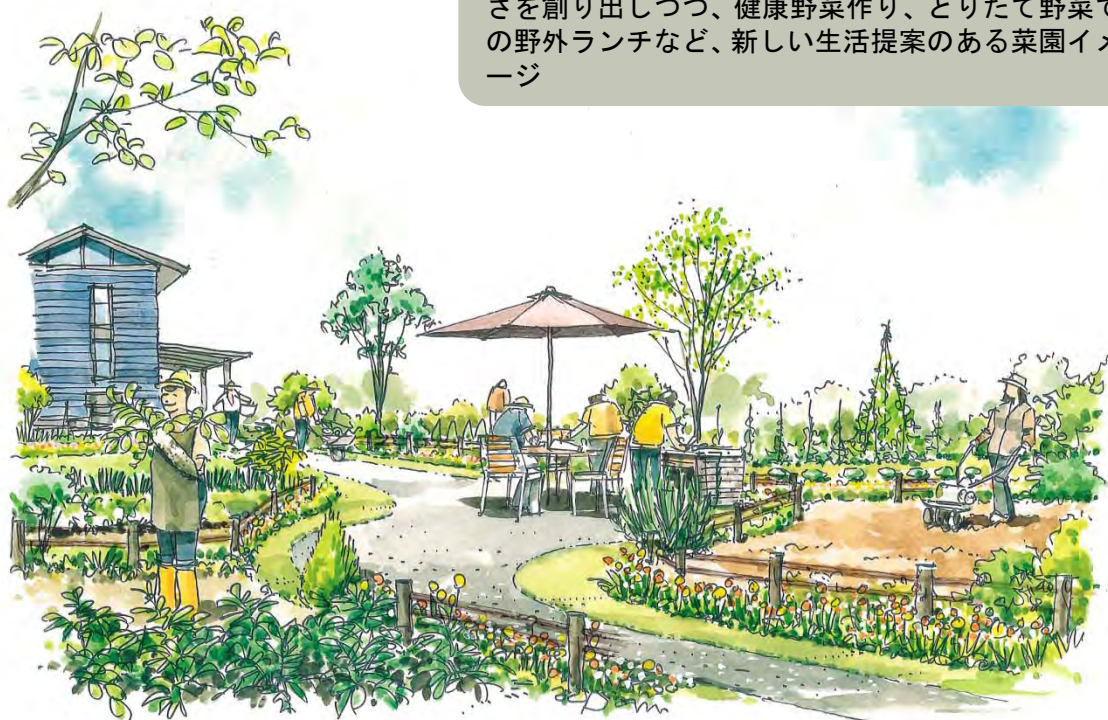
5.1 区間②基本計画

■整備テーマ

農と人の共生

区間②は、「農と人の共生」をテーマに、人と土、人と動物のふれあう空間を整備します。

ハーブや実のなる木をとり入れ、風景としての美しさを創り出しつつ、健康野菜作り、とりたて野菜での野外ランチなど、新しい生活提案のある菜園イメージ



菜園ガーデンのイメージスケッチ

■施設整備

区間②では、以下の施設を整備します。

- 交差点広場
- 農園
- 休憩スペース
- 市民活動広場
- 菜園ガーデン*
- ふれあい牧場
- 菜園ガーデン管理棟
- 駐車場 など



菜園ガーデンイメージ



休憩スペースイメージ



ふれあい牧場イメージ

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

区間② 基本計画図



5.2 区間③基本計画

■整備テーマ

森と人の交流

区間③は、「森と人の交流」をテーマに、雑木林に囲まれたスポーツ施設や、市民の活動空間を整備します。

雑木林や草原の雰囲気の中で、健康づくりや子育て、野外イベントができる自由な広場のイメージ



フォレストガーデン*の中の市民活動広場（野外ステージ）のスケッチ

■施設整備

区間③では、以下の施設を整備します。

- 交差点広場 ●市民活動広場 ●芝生広場 ●市民の森 ●環境学習広場
- フットサル*場 ●イベント広場 ●健康広場 ●管理棟 ●駐車場
- など



イベント広場のイメージ



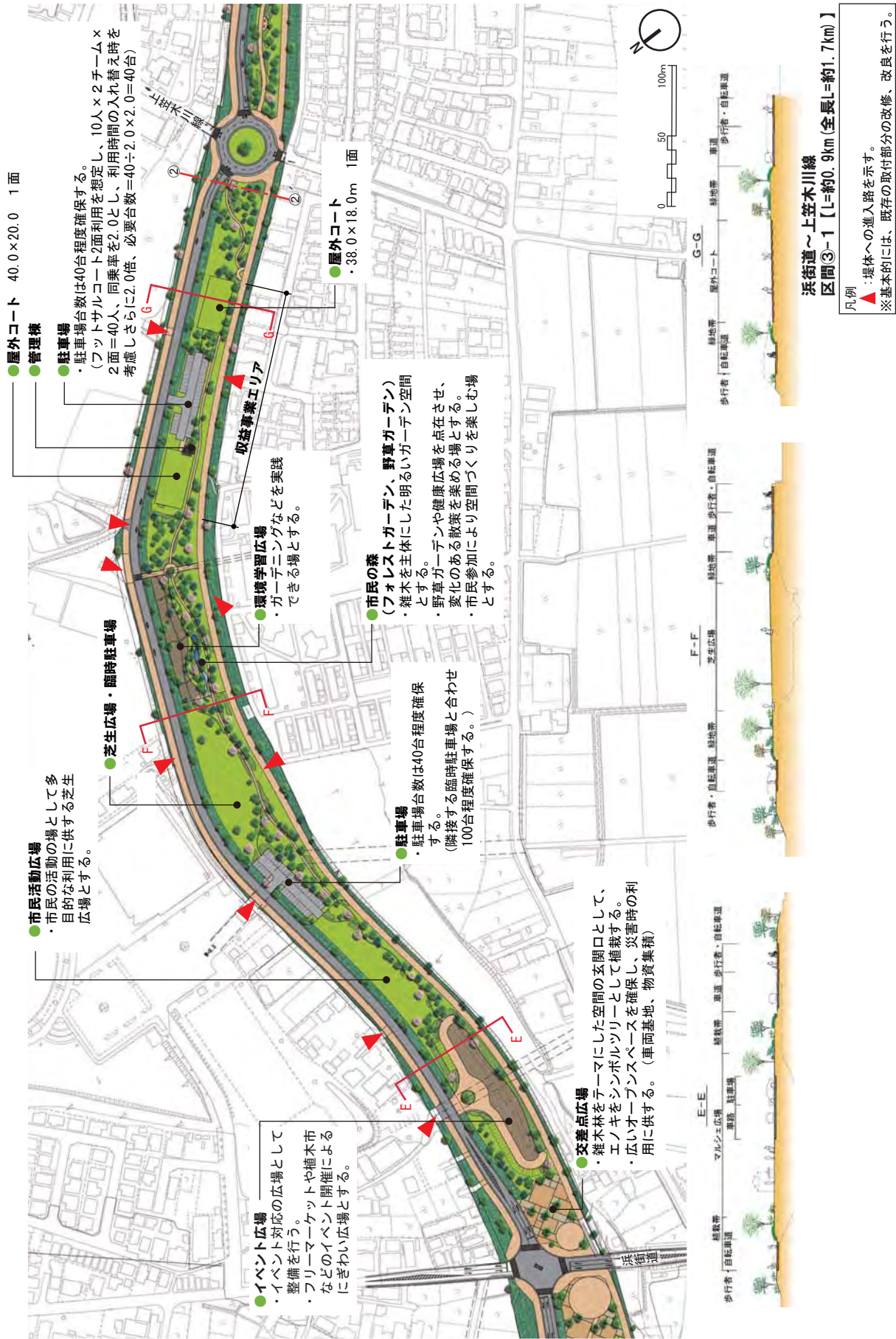
芝生広場・市民の森イメージ



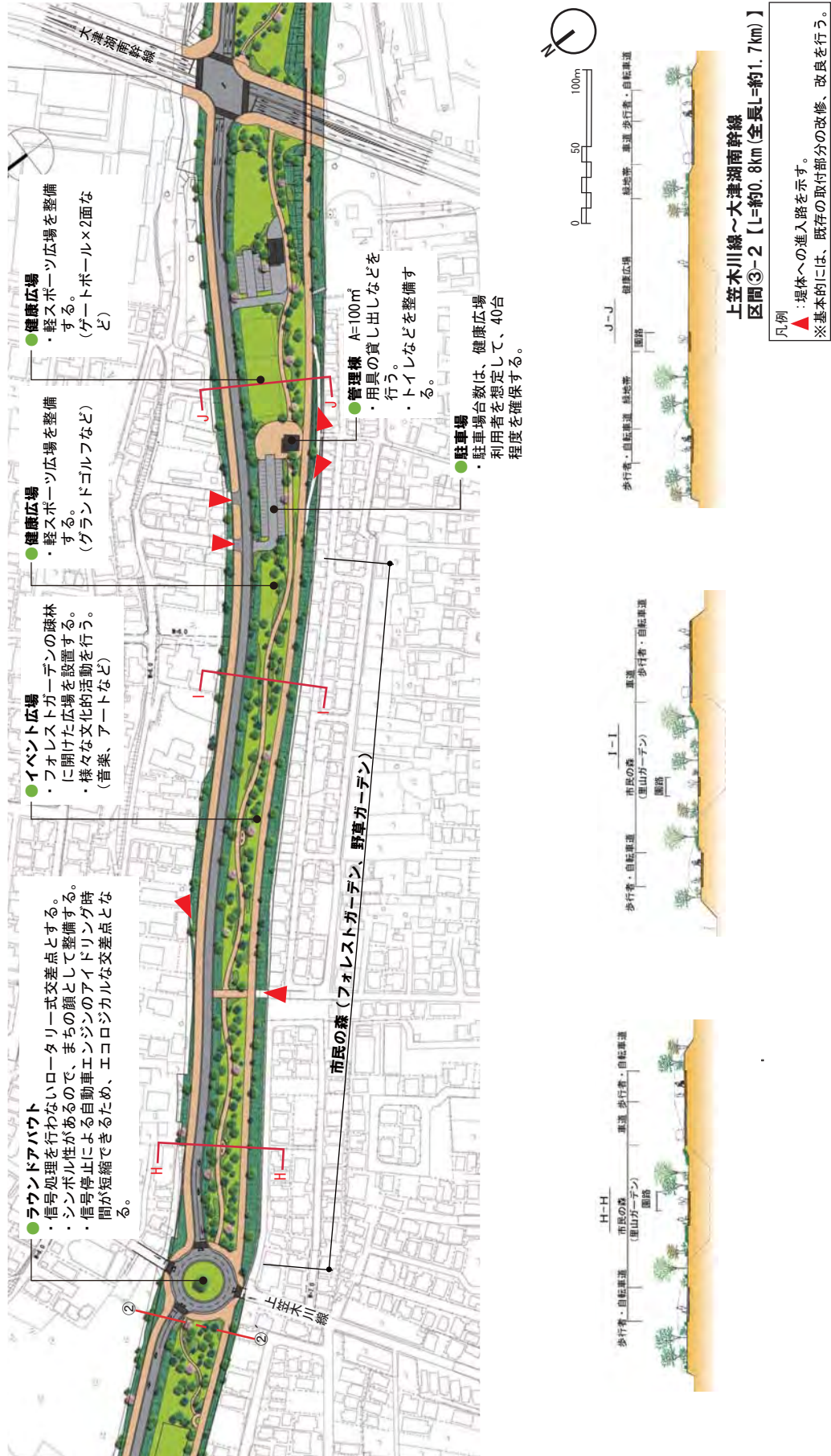
市民の森イメージ

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

区間③-1 基本計画図



区間③-2 基本計画図



5.3 区間④基本計画

■整備テーマ

環境と人の共生

区間④は、「環境と人の共生」をテーマに、隣接する野村運動公園や民間活力導入エリアの空間と調和のとれた自然空間を整備します。

遊歩道、自転車道、そしてクルマの道路が、安全に快く共存できるように、見通し良く、柔らかかで自然なライン、植栽デザインによる道沿いのイメージ



ロードガーデン*のスケッチ

■施設整備

区間④では、以下の施設を整備します。

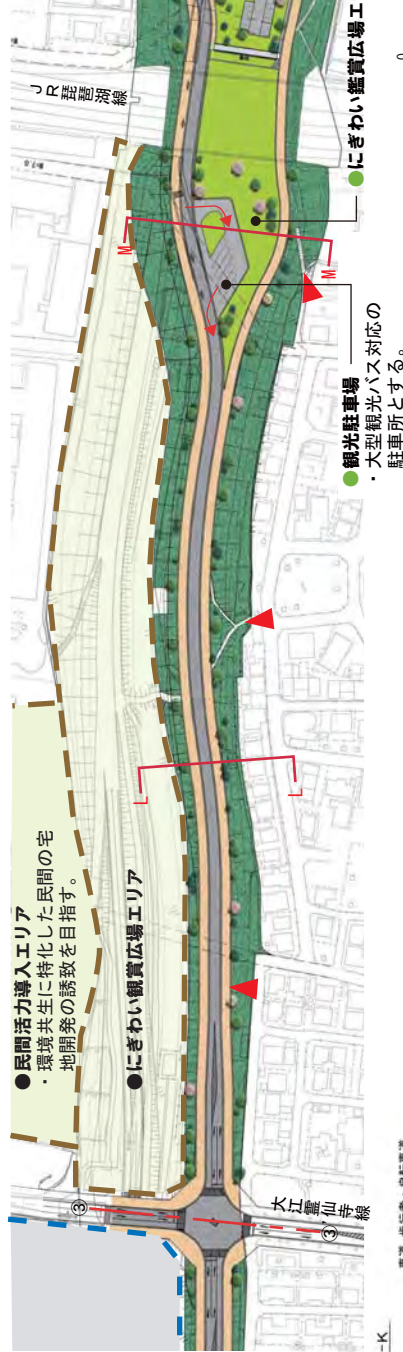
- 健康広場
- 観光駐車場 など



ロードガーデンイメージ

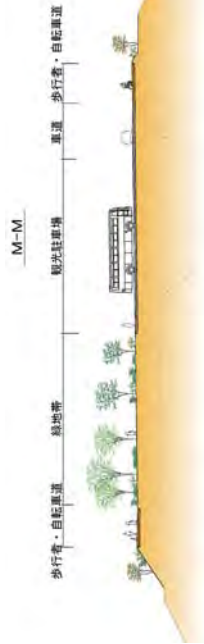
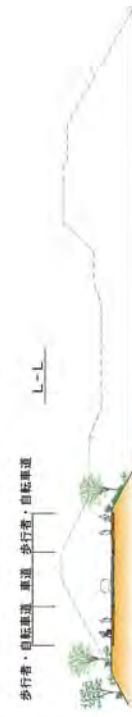
注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

区間④



※にぎわい鑑賞広場エリアは、隣接する市営住宅跡地との一体的な土地利用を目指す。

※野村運動公園の活用と民間活力導入エリアは、別途検討が必要なため、本計画では、道路と最低限の緑軸の部分だけを表現している。



大津湖南幹線～JR琵琶湖線
 区間④【L=約1.2km】

凡例
 ▲：掘削への進入路を示す。
 ※基本的には、既存の取付部分の改修、改良を行う。

5.4 区間⑤基本計画

■整備テーマ

人と人の交流

区間⑤は、「人と人の交流」をテーマに、各種ガーデン*と共に楽しめるにぎわい空間を整備します。

都市の中で、自然と共生するビオトープ*やせせらぎと共に、お茶や食事、買い物が楽しめる場づくりのイメージ



ウォーターガーデン*とにぎわい施設のスケッチ

■施設整備

区間⑤では、以下の施設を整備します。

- 展望デッキ
- セレクトショップ*
- カフェ
- ビオトープ など



展望デッキイメージ



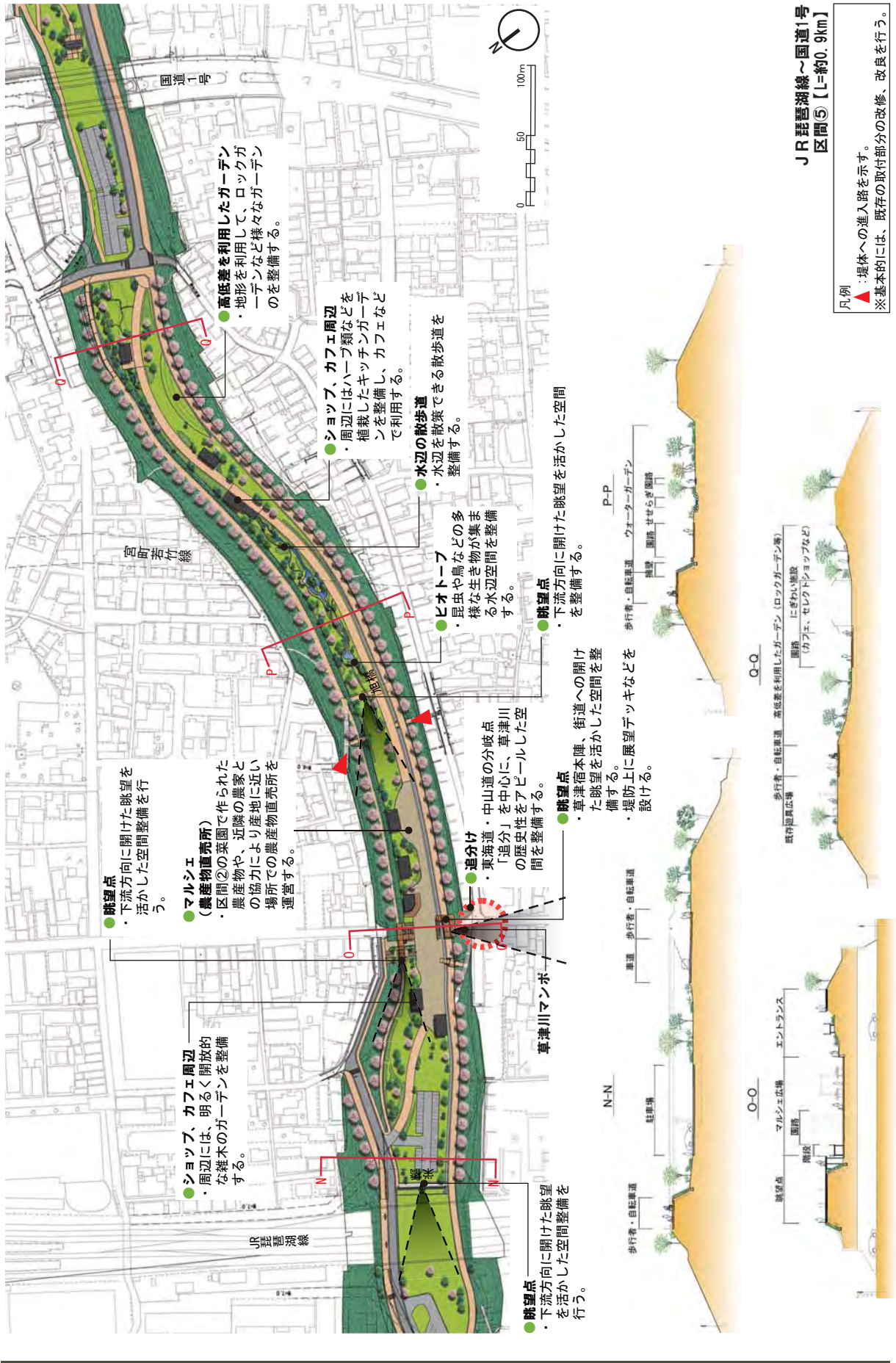
セレクトショップイメージ



カフェイメージ

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

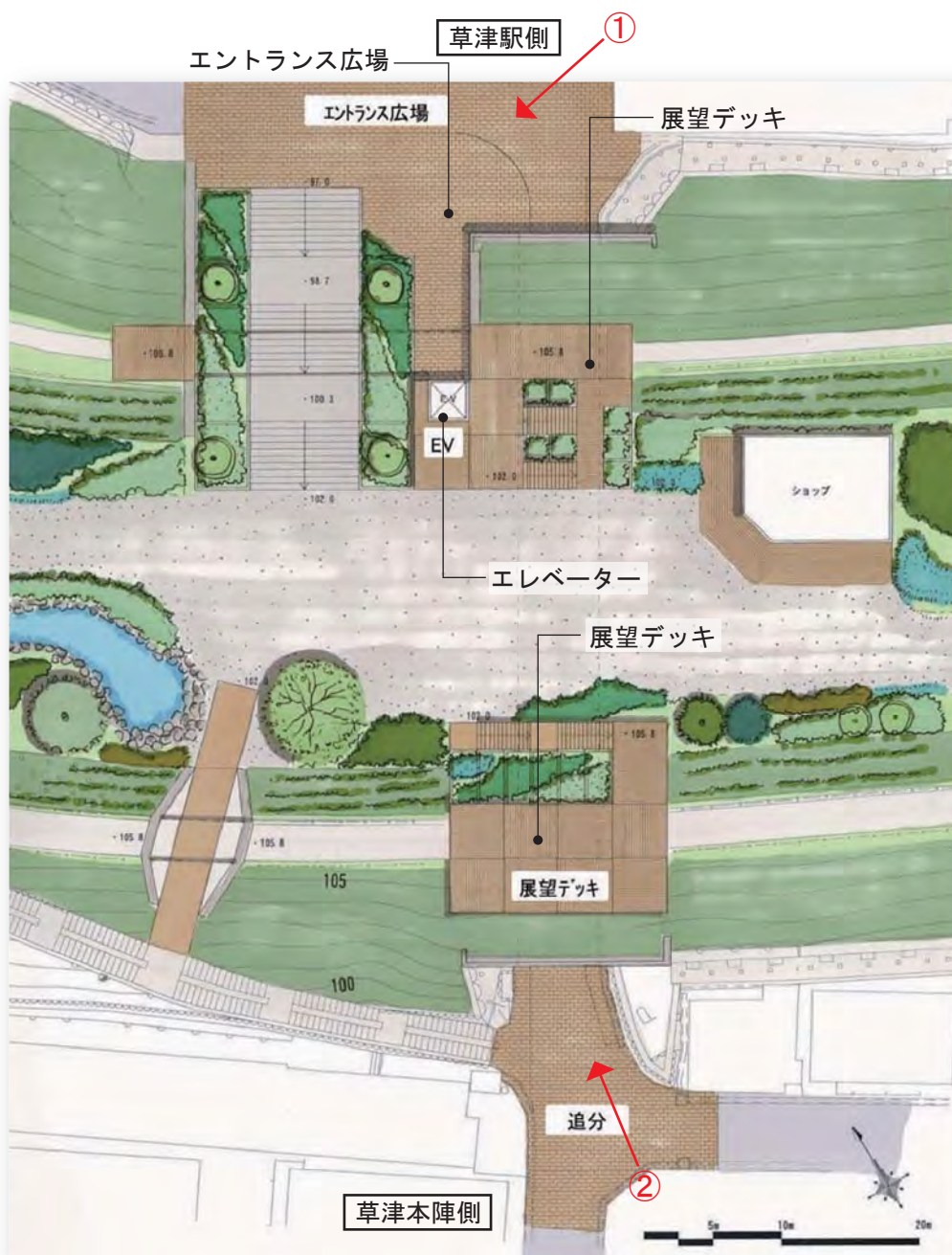
区間⑤ 基本計画図



区間⑤ 草津川マンポのデザイン

区間⑤の中心的な空間である草津川マンポ*周辺は、以下の考え方により整備を行います。

- ・ 駅前の都市的空間と、草津本陣や東海道・中山道の追分を連絡するトンネルである草津川マンポ周辺を当区間のメインエントランスとします。
- ・ 駅前地区と草津宿を結ぶ草津川マンポは、両側の出入口をアーチ型のトンネルとして部分的に改修し、自然の風合いのあるレトロな雰囲気のランドマーク*として創出します。
- ・ 草津駅側は、駅からの利用者を階段とバリアフリー*対応のエレベーターを設置し、草津川跡地に導きます。階段と一体的にデザインされたイベント広場などにより、開けた空間を演出します。
- ・ 草津宿側は、追分と一体的に堤体デザインを改修するなど、歴史的景観との調和を図ると共に、既存の階段を改修し、草津川跡地への動線*を確保します。

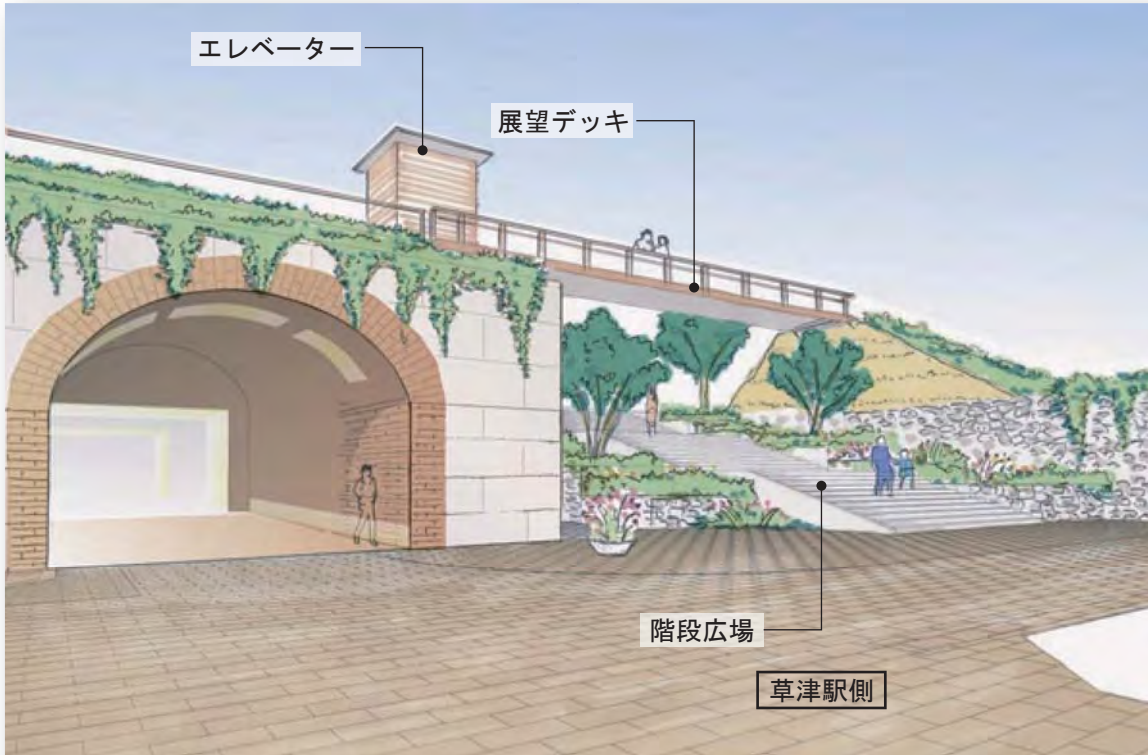


草津川マンポイメージ

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

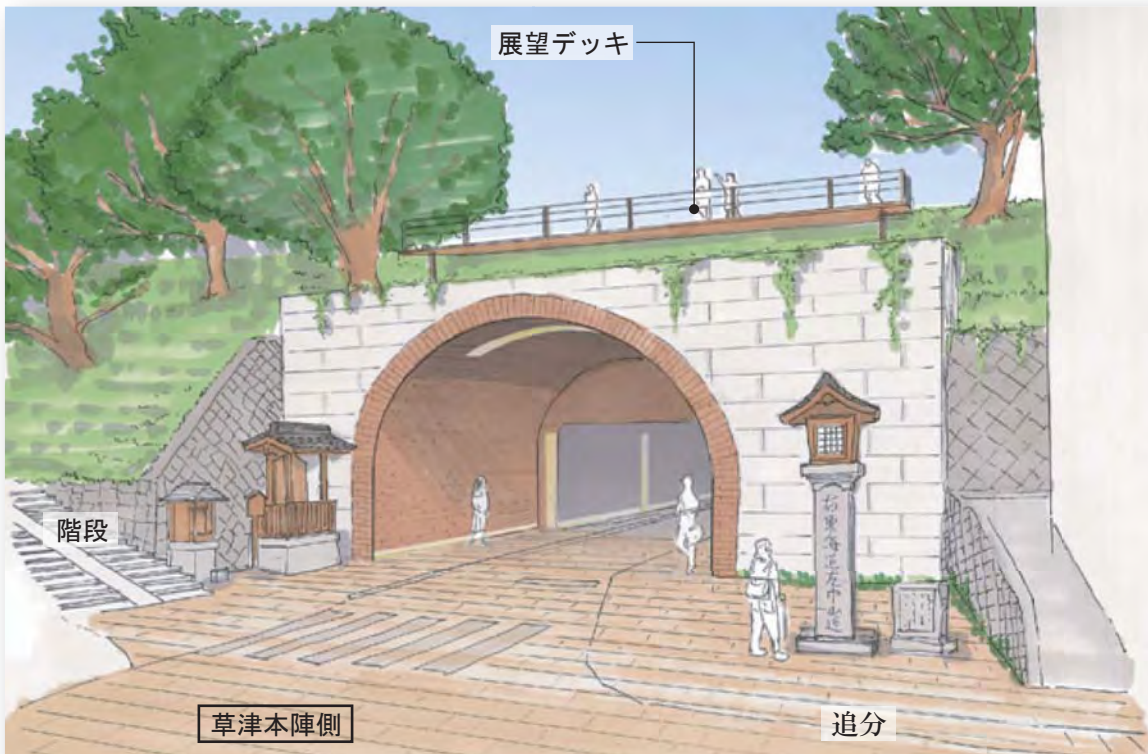
① エントランス広場イメージ

駅からの利用者を階段とバリアフリー*対応のエレベーターを設置し、草津川跡地に導きます。草津川マンポ*は、アーチ型のトンネルとして改修し、自然の風合いのあるレトロな雰囲気ランドマーク*として創出します。エントランス広場の整備に伴い、堤体を開削する部分については、旧草津川の治水の歴史を語る堤体断面の保存など、貴重な歴史資源を活かした整備を行います。



② 追分イメージ

追分と一体的に堤体デザインを改修するなど、歴史的景観との調和を図ると共に、既存の階段を改修し、草津川跡地への動線*を確保します。



注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

5.5 区間⑥基本計画

■整備テーマ

時と人の出会い

区間⑥は、「時と人の出会い」をテーマに、草津の歴史と未来をつなぐやすらぎ空間を整備します。

東海道が草津川と並行していたあたりの歴史を思い起こせるように、木戸門、園灯、歩路、そして植栽にも、自然な和の雰囲気を取り入れるイメージ



東海道歴史ガーデンのスケッチ

■施設整備

区間⑥では、以下の施設を整備します。

- 東海道歴史ガーデン* など



歴史ガーデンイメージ



ガーデンイメージ



園路イメージ

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

